

祇園社削り掛の神事は例年元朝寅の刻にして、社務福寿院拜殿に於て法施奉らる。其四方には削掛の木十八所にありて、法楽終りぬればこれに火を移し、四方へ配し、又若水を汲んで奉る。是陰陽和順のしるしとかや。かの削掛の火を参詣の人々火繩にうつし家に携帰りて、元朝雑煎の焼火とす。是なん其年の疫を免るる為なりとぞ。